

| | | | |
|---------|-------|----------|------------|
| 教育基礎論 | 1年・後期 | 2単位 30時間 | 准教授 堤 ひろゆき |
| 科目カテゴリー | 教職科目 | 科目ナンバリング | 37011201 |

1. 授業のねらい・概要

われわれは教育を通じて大人になり、教育という関係性のなかで日々他者とかがわっている。誰もが日常的にかかわり経験的に知っているこうした広い意味での「教育」を、批判的に捉え直す試みが教育「学」だとするならば、教育学を学ぶことにはわれわれ自身のアイデンティティを問い直す作業が必然的に含まれると言える。この授業では、学生がわれわれが素朴に抱く子ども観や学校観の歴史的・思想的起源を探ることによって、自らの暗黙的な教育観を反省的に対象化・言語化することを目指す。

2. 学修の到達目標

他の諸学問とは異なる教育学的な思考様式の基礎を身につけ、教育という視座から様々な事象を眺めることの重要性の理解をテーマとし、下記の目標を掲げる。

1. 教育の原理に関する基礎概念や理論を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-1)
2. 教育思想の変遷や学校教育の歴史を学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-1)
3. 現代の教育問題について、理論や歴史をふまえて学術的に通用する言語を用いて表現できる。(D-5)

3. 授業の進め方

レジュメおよび参考資料を配布し、基本的には講義形式で進めていく。また具体的な教育実践を扱った映像資料や文献などを紹介し、その内容について受講者全員で議論する時間も多く設けたい。

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、調査学習、グループワーク、対話・議論型授業を用いる。

【ICT活用の有無】

ICT活用の実施：メールやチャット等による学生と教職員間での学習に関するコミュニケーションの機会。

4. 授業計画（講義）

| 回 | 授業内容 | 授業形態 | 事前事後学修（学修課題） | 担当 |
|---|-----------------------|------|--|-------|
| 1 | 講義の概要 | 講義 | 予習：「教育」とは何かを一文で表現できるようにしておく。 復習：自分自身が持っている教育観の限界を言語化する。（以下、復習は小レポートの課題を示す。） | 堤ひろゆき |
| 2 | 「教育」の条件①：ヘレン・ケラーの事例から | 講義 | 予習：「ヘレン・ケラー」について調べる。 復習：具体的場面から講義で扱った考え方の適用例を挙げる。 | 堤 |
| 3 | 「教育」の条件②：野生児の事例から | 講義 | 予習：「狼少女」について調べる。 復習：教育の権力性を具体的な場面から考察する。 | 堤 |
| 4 | 教育における「発達」という視点 | 講義 | 予習：「発達」の語について調べる。 復習：発達理論の利点と欠点について考察する。 | 堤 |
| 5 | 子ども観の思想史①：子ども観の社 | 講義 | 予習：自分が持っている「子ども」イメージを明確 | 堤 |

| | | | | |
|----|-------------------------------|----|---|---|
| | 会史 | | 化し言語化しておく。 復習：子ども観の歴史的展開から予習で言語化したイメージの歴史性を整理する。 | |
| 6 | 子ども観の思想史②：現代の子ども観 | 講義 | 予習：子どもの権利について調べる。 復習：学習権の観点から現代の教育問題について考察する。 | 堤 |
| 7 | 教育思想史を学ぶ①：ロックの積極教育とルソーの消極教育 | 講義 | 予習：ロックおよびルソーについて調べる。 復習：現代の教育観におけるロックとルソーの思想的影響を考察する。 | 堤 |
| 8 | 教育思想史を学ぶ②：消極教育の受容と展開 | 講義 | 予習：ペスタロッチおよびフレーベルについて調べる。 復習：消極教育に基づく教育の展開をまとめる。 | 堤 |
| 9 | 教育思想史を学ぶ③：ヘルバルトとデューイ | 講義 | 予習：ヘルバルトおよびデューイについて調べる。 復習：現代の教育に活用されている両者の思想を挙げ、改善点を理論的に考察する。 | 堤 |
| 10 | 日本の教育の歴史①：近代教育制度の始まりから大正新教育運動 | 講義 | 予習：明治以降大正までの歴史の流れを調べる。 復習：「自発性」「主体性」の言葉が持つ危険性を歴史に基づいて考察する。 | 堤 |
| 11 | 日本の教育の歴史②：大正から戦後の教育への連続と断絶 | 講義 | 予習：大正から昭和初期の歴史の流れを調べる。 復習：戦前から戦後への教育の連続とは何かについて考察する。 | 堤 |
| 12 | 近代教育批判①：近代的主体の形成と学校教育 | 講義 | 予習：フーコーについて調べる。 復習：「規律訓練権力」の具体的な例を挙げて考察する。 | 堤 |
| 13 | 近代教育批判②：教育空間の可視化と学校教育 | 講義 | 予習：学校における見える空間と見えない空間を発見する。 復習：教育における見える空間と見えない空間の関係を考察する。 | 堤 |
| 14 | 新しい教育を考えるために①：学校接続と生成としての教育 | 講義 | 予習：日本の旧制学校制度が現行制度とどのように異なっていたか調べる。 復習：生成としての教育を取り入れる教育とはどのようなものか考える。 | 堤 |
| 15 | 新しい教育を考えるために②：媒介者としての教師 | 講義 | 予習：講義を通じての内容を復習する。 復習：自分自身がなれる理想の教師像を具体的に考える。 | 堤 |

5. 成績評価の方法・基準

受講態度・講義中の小レポートなどによる平常点（30%）、期末課題（70%）の成績を総合的に加味して評価する。

評価対象物は、「2. 学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表を基に、5段階評価で採点する。ルーブリック評価表に関する詳細は、講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

自作の講義資料を配布する。参考文献としては木村元ほか（2009年）『教育学をつかむ』有斐閣。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

配布資料および参考文献の読解に1時間30分程度、論述課題にむけての準備に1時間30分程度、あわせて3時間以上の準備学修を要する。

8. 受講上の留意事項

現実の教育との関連を意識し、常に最新の情報に目配りするとともに、明確な目的意識をもち、教職に就くことを強く希望する学生の受講を望む。

9. 課題に対するフィードバックの方法

課題提出前に解答のポイントを説明する。課題後には講評を公開する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

養護教諭第一種免許状取得のための必修科目である。

11. 該当する本授業は、以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。